

**OUHS**
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES**OUHS
ATHLETIC
DEPARTMENT**

高松宮記念杯男子第61回・女子第54回
平成30年度全日本学生ハンドボール選手権大会

(女子) 6年連続7度目の優勝、(男子) 17年ぶり10度目の優勝 大阪体育大学アベック優勝を果たす

平成30年11月10日(土)～14日(水)の5日間にわたり、「高松宮記念杯男子第61回・女子第54回 平成30年度全日本学生ハンドボール選手権大会」が丸善インテックアリーナ大阪(大阪府中央体育館:大阪府港区田中3-1-40)で開催されました。

本日の決勝戦では、午前中に女子の試合が行われ、これまで決勝の場で3度顔を合わせている東京女子大学と対戦。24対22という接戦を制し、大阪体育大学が6連覇を死守し7度目の優勝となりました。今回の6連覇達成は、1974年の日本体育大学の5連覇を44年ぶりに塗り替える連続記録となります。また女子は2018年11月14日現在で、2013年から公式戦156連勝中となります。

午後に行われた男子の決勝戦で、本学は福岡大学と激突。後半29分56秒で本学が勝ち越しに成功するものの、30分ちょうどに同点に追いつかれ、試合は延長戦へ。シーソーゲームを繰り返すも、試合は再び振り出しに戻り第2延長へともつれ込みます。後半、勢いの衰えない攻撃により本学が連続得点を決めたことで、結果38対35で17年ぶり10度目の優勝となりました。

これにより、本大会において本学は初のアベック優勝を経験しました。ちなみに本大会においてのアベック優勝は、1990年の日本体育大学が達成して以来、28年ぶりとなります。

なお、両チーム監督のプロフィールは、2枚目に記載しております。

【本内容に関するお問い合わせは…】

大阪体育大学スポーツ局(姫路/森田)まで

Tel: 072-479-3900 Mail: info@ouhs-athletics.jp

ハンドボール部監督PROFILE

ハンドボール部(女子)

楠本 繁生(くすもと しげお) 1964年10月10日生まれ 大阪体育大学卒



大阪体育大学准教授 ハンドボール部(女子)監督 (専門分野)体育科教育学

【主な戦績・指導実績】

- 全日本学生ハンドボール選手権大会6年連続優勝(2013年～2018年)
(通算優勝数は計7回)
- 第21回女子ジュニア(U-20)世界選手権
(2018年7月1日～14日、ハンガリー)監督(14位)
- 第24回世界学生選手権(2018年7月30日～2018年8月5日、クロアチア)
監督(優勝)ほか
- 2015年度日本ハンドボール学会賞受賞

大阪・北陽高校(現・関西大学北陽)でハンドボールを始め、大阪体育大学に進んで全日本学生選手権優勝を経験。大学卒業後は京都府立洛北高校に赴任し、体育教員として教壇に立つかわら、ハンドボール部の指導に尽力。在任23年間でインターハイ4連覇を達成するなど、数々の栄冠を手にした。2010年からは母校・大阪体育大学の教員となり、ハンドボール部(女子)の監督としてチームを率いている。

ハンドボール部(男子)

下川 真良(しもかわ まさよし) 1976年6月23日生まれ 大阪体育大学卒 岐阜大学大学院修了



大阪体育大学 講師 ハンドボール部(男子)監督 (専門分野)コーチング(ハンドボール)

【主な戦績・指導実績】

- 2018年全日本学生ハンドボール選手権大会優勝(監督として初優勝)

大阪体育大学時代には、全日本学生ハンドボール選手権大会で2度優勝。1998年開催の世界学生ハンドボール選手権大会に出場。大学卒業後は湧永製薬株式会社に入社し、同社ハンドボール部に加入。同チームでは全日本実業団ハンドボール選手権大会で4度、全日本総合ハンドボール選手権大会で2度、国体で3度の優勝を達成。個人でも実業団選手権新人王、最優秀選手賞、日本ハンドボールリーグ新人王のほか、実業団選手権とリーグのベスト7を4度ずつ受賞している。日本代表として長きにわたって活躍。世界男子ハンドボール選手権大会やアジア競技大会、オリンピック予選にも出場。2008年に現役を引退し、同年、指導者に転向。朝日大学ハンドボール部の監督に就任したのち、2010年にはHC岐阜(国体強化チーム)の監督に。2016年4月から本学ハンドボール部(男子)の監督に就任した。

両監督の大阪体育大学在学中に指導し、その他、数々の選手・指導者を輩出した宍倉保雄氏は、1973年から男子部を監督、2018年3月に退官後、同年4月から同大学のスポーツ局局長に就任し、同大学の運動部の強化・支援ならびに、スポーツ事業の推進を牽引しています。